

記

1. 日 時 7月1日(土)午後5時
2. 場 所 セントラルホテル佐世保 佐世保市上京町3-2
3. 懇親会費 5,000円、専攻科学生 2,500円
4. 申込期限 6月23日(金)可能な限り5月末まで
にお申し込み下さい。
5. 連絡先 支部長 中田 敦典 (10E)
Eメール anokue1955@icloud.com
TEL 090-8666-5675

参加申し込み後のキャンセルは支部長のEメール宛てに連絡して下さい。6月29日(木)以降のキャンセルは懇親会費がかかります。

『関西支部だより』

関西支部長 高島 裕正 (17C)

本年度の関西支部の活動内容としましては、以下の内容で予定しています。また、関西支部の集いにつきましては、会場が決定次第、イベント管理システムに登録、案内する予定です。

①2023年度関西支部の集い

【日 時】 2023年6月3日(土)16:00～19:00

【開催場所】 大阪梅田近辺(開催場所調整中)

※今回は、M1グランプリ3回戦まで勝ち残った芸人「はるかぜに告ぐ」に来て頂き漫才披露して頂く企画を検討中です。

②関西支部ゴルフコンペ

第35回STC関西同窓会ゴルフコンペ

【日 時】 2023年3月18日(土)

【開催場所】 神戸グランドヒルゴルフクラブ

第36回STC関西同窓会ゴルフコンペ

【日 時】 2023年11月10日(金)

【開催場所】 滋賀県ゴルフ場

【現役学生からの投稿】

『“高専生が制作した”学校紹介ムービー』

物質工学科 4年 山本 琉加

私たち動画作成チームは中学生をターゲットに、学校紹介ムービーを今年度5月から3ヵ月かけて制作し、YouTube佐世保高専公式チャンネルにて公開しました。

構成、脚本、出演、撮影、編集を全て学生だけでこだわりをもって作り上げたので、佐世保高専愛が詰まった魅力的な動画になりました。中学生だけでなく、在校生、さらには卒業生も「佐世保高専って最高だな、楽しそうだな」と大好評です。

撮影や編集で予想以上にかかる時間、慣れない機材、出演者に細かい演技指導など、想像以上に大変でした。しかし、制作チームは臨機応変な対応力があり、責任感が強く、歯車がしっかり噛み合っていると感じるものが多かったです。動画制作を学生に任せてもらえる、これは佐世保高専だからだと思います。企画の4C山口智尋、カメラの5S黒岩和貴、編集の5E山本壮悟には特に感謝しています。

これからも佐世保高専公式チャンネルで様々な動画が公開されるのでぜひご注目ください。

『ラグビー部の令和4年度の活動・結果について』

機械工学科 5年 川原 健裕

後援会の皆様にご支援いただき、今年度も全国大会の舞台でプレー出来たこと、深く感謝いたします。

先日神戸で行われた全国高専大会では、初戦敗退という結果に終わってしまいました。顧問の先生方、保護者やOBの皆様1年間支えていただき本当にありがとうございました。

今年はプレイヤーが18人、マネージャーが3人で全国大会に向け練習を重ねて来ました。4年生中心のチー



株式会社 亀山電機
Kameyama Electric Co., Ltd.

本社 : 〒852-8002 長崎市弁天町3番16号
佐世保事業所 : 〒859-3226 佐世保市崎岡町2720-8
佐世保情報産業プラザ第1棟1F
TEL : 095-864-7000 FAX : 095-864-7001

卒業生

代表取締役 北口 功幸
機械工学科 20期卒業

21E 栗田 浩一
27E 大田 義之
32S 滝川 雄
44M 柴山 晃一
57S 長尾 舞琴

Industrial Automation・Office Automation・Webの3つの事業を通じて、日本の西の果て「長崎」から世界を攻めている企業です！
自動化(オートメーション)の最適な技術を提供いたします。



ムでしたが、部員1人1人が意見を出し合う良いチームになったと思います。

さて、これまでの5年を振り返ると、仲間たちと練習して来た日々や4年次にキャプテンをさせてもらった事はとても価値のある経験であり、自分自身が大きく成長できたと思います。

下級生が考えて行動している佐世保高専ラグビー部は、これから必ず強くなります。今後の成長にご期待ください。

『高専ロボコン2022九州沖縄地区大会について』

電気電子工学科 4年 藤山 春樹

ロボコンプロジェクトは、10月に熊本で行われた高専ロボコン2022九州沖縄地区大会に参加しました。2020年、2021年の大会は、感染対策のためオンライン大会の開催となっており、今大会は3年ぶりの現地開催でした。競技課題は「ミラクル☆フライ ～空へ舞いあがれ!～」というもので、あらかじめ決められた目標地点に向けてロボットが紙飛行機を飛ばし、その得点を競う競技でした。全国大会出場は逃したものの、両チームとも全試合において大きなトラブルもなく安定した動作を見せることができ、トビウオの装飾を施した「飛び立て!!トビウオくん」が1勝、忍者が手裏剣を投げる動きを表現した「絡繰忍者隊」が準優勝することができました。

応援、及び支援していただいた皆様、ありがとうございました。今後とも、ロボコンプロジェクトをよろしくお願い申し上げます。



『サイバーセキュリティボランティア』

専攻科 2年 末永 柊輝

本校が平成29年度から活動してきたサイバーセキュリティボランティアが、これまでの先輩方の熱心な取り組みにより内閣府特命担当大臣表彰をいただきました。諸先輩方と共に取り組んできた者として大変光栄に思います。ご支援・ご指導くださった長崎県警の関係者の皆様、先生方、職員の皆様へ感謝申し上げます。

私たちは、情報端末の利用を始めた小中学生に対して、インターネット利用の際の正しいモラルや情報セキュリティの知識を身に付けてもらうことを目的に講演を行っています。私は、昨年度オンラインで1校、今年度は対面で2校の小中学校で講演する機会をいただきました。受講した児童・生徒の皆さんは、私たちの質問に積極的に手を挙げるなど真剣に話を聞いてくれ、セキュリティ対策や情報モラルの重要性を伝えることができたと考えています。

※掲載写真は「内閣府提供」



【一般投稿】

『一会社生活43年を思う』

久家 熊吉 (13E)

現M株式会社に入社して43年間を終えようとしている。定年はとうに過ぎているが、再雇用の身で部長の肩書で続けさせてもらっており、愚生を会社人として育ててくれた会社への「恩返し」の日々である。愚生の狭い見識でうらはずかしいが、高専卒の会社人として生き抜く術を自己の反省を含めた提言としたい。

入社して間もない時期、あるいはそれから数年後、仕事の内容が分った気になると「こんな仕事を選択したはずではなかった」との思いが募った。愚生の経験である。「電気機械のメンテナンス」を希望して入社したが、育成期間を終えて顧客の設備（電気機械）へ作業に出向くと、単に作業するのみにとどまらず、顧客と多くの会話が必要であった。仕事を始める前には、前回の作業以降に「異常を感じた点はないか」「気になる点はないか」等々。仕事が終わると実施した作業の報告とQ&A。故障が発生した時は「なぜ前回の作業で分らなかったのか」「今後故障させないために何をしてくれるか」等々。

知識や技能も十分ではなく自信がない時期に、顧客との対話が苦手であった。ここで転職の道を選択しなかったのは、入社して何年目だったか、40年も前のことで定かではないが、単に「決断力がなかった」だけではなく、「5年間頑張った高専在学中の振り返り」であったと言える。

子供から大人になる多感な5年間を、上下関係に厳しい寮生活と部活動（練習時間の多い軟式庭球）、授業と実験・レポートの繰り返し等を乗り越えて来た経験と根性があると考えた。「まずは5年間この会社で一生（一所）懸命に頑張ってみよう。その時にまた仕事を続けるかどうかを考えてみよう」と決めた。

それからは、社内はもとより顧客から「尋ねられたことは全て答える」ことを目指して我武者羅に取り組んだ。今では社内のパソコンから検索して容易に得られる情報となったが、当時は全て紙資料であった。単に業務上必要な知識や技術にとどまることなく、業務に関係する法令、業界標準と社内規則・運用等を頭に入れた。丸暗記はできないので、自らの業務に関する資料相互の関

係、必要な時に資料の詳細を確認できるインデックスを自らの資料として整理した。これらを直向にやったことは、愚生が会社生活を続ける上で大きな武器になった。

そりが合わない上司と巡り合った時期があった。「このままこの仕事を続けるか、辞めるか」悩んだのは事実である。自分だけなら未だしも家族が路頭に迷う可能性があり、またこれからの5年間をどうして乗り越えようかと考えた。「この先ずっとこの上司の下に所属するわけではなく、この上司は年齢的に自分より先に会社からいなくなる人だ」と自分勝手な考えに至る。

会社に大きな損失を与え、かつ顧客の信頼をそこなう事件を起こした（監督責任）ことがあった。設備の復旧作業と並行して、顧客と親会社及び社内関係部門等へのお詫び行脚で、心身ともに疲労困憊の体であった。これからの5年間を続ける気力があるかを自問自答した結果、決断力のなさも手伝って今日に至る。

転職を考える機会は何度かあったが、都度社内の同僚や良き上司・先輩方の支援をいただいて「佐高専卒の心意気」「先ずは5年間、次に5年間」を積み重ねて、幸いに定年まで勤め上げることができた。

現在は土・日曜日にそれぞれ多摩川堤防9～10kmを歩き、体力の維持と頭のリフレッシュで翌週の仕事に立向かう気力を得ている。再雇用の身となった今、愚生を育ててくれた会社、これまで支援をしてくれた現職（後輩）の恩に報いることを、気力・体力・知力のある限り継続したい。

好きな言葉で締めたい。「偶然は準備のできていない人を助けない（パスツール）」「勝ちに不思議の勝ちあり。負けに不思議の負けなし（原作は松浦静山、野村克也）」「自分にしかない武器を持つ。振り返る時の注意点『伸び代と改善点』（三苦薫）」

以上

『学生時代にお世話になった下宿の話』

山田 正見 (2M)

5年生になると、退寮だと言う噂がながれ、我々は寮を出る覚悟でした。決して強制ではなかったが、周りの雰囲気そうさせたのです。寮生の約8割は下宿に変わったと思います。私は4ヶ町のある電器店の紹介で、松川町の個人の家に下宿することになりました。家賃な

ど全く覚えていません。かなり安かったと思います。その家の男子（中学生）の家庭教師も頼まれました。ですから家賃は払っても少しは収入があったと思います。その家は、戸尾市場で魚屋をやっており、名前は小林鮮魚店だったと思います。朝飯、晩飯付き、更に弁当まで作ってくれました。魚屋ですから美味しい料理が沢山ありました。晩飯も一緒に食べるのですが、ある時「この魚は何ですか？」と聞いたら、その長女（高2くらい）が「カイバシラだ」と教えてくれ「さすが魚屋だ、良く知っている」と思ったものです。カイバシラが貝と知ったのはずっと後の事です。そこのお父さんは私が家庭教師をしていた息子さん（M男君）の事を気にかけており、ある時「M男の入る穴を見つけといてくれ」と言われた事があります。

私が卒業する時は、お祝いにベルトをくれました。有難いと感謝しつつも、特別にお別れの挨拶もせず、軽い気持ちで分かれ、名古屋に住んで、55年経ちました。私は言いたいのです。毎日弁当まで作ってくれて、おばさんありがとう。お父さんの願いをかなえずごめんなさい。気ままな私の世間知らずを許して下さい。もしお礼をする機会があれば100倍にしてお返ししたい。そんな気持ちで一杯です。感謝したいのは、先生、学校、など多くあります。でも下宿への感謝も忘れる事は出来ません。しかし音信不通を今日までやり過ごした自分が情けなく、今更 顔出しなどできません。もう遅すぎます。以上が下宿の思い出です。次回は もっと面白い思い出を投稿したいと思っています。

『惜別（故佐々木雄爾先生）寮生会誌第3号昭和51年2月』

永尾 良一（8C）

今年度の化学科卒業生は、1年生の時担任したので強く印象に残っている。入学式の日、入寮状況を見るため

に、建ったばかりの新棟の各室を廻って歩いたことを思い出す。

その当時、工業化学に関しては、ズブの素人であった諸君が、5年経って、相応の知識と技術とを身につけて（それは実験着の板につき具合から解る）就職して行くのだからえらいものだと思う。私が、中学・高校時代を通じて全く理解できず、その存在意義を深く疑った「化学」でめしを食う人間というのは、並の人間とは思えないのである。

しかしこの「めしを食う」という言葉は、わびしく、かなしい。学校というところも結構わびしいが、職場は更にわびしいのではあるまいか。せめて、仕事を、食うための手段と割り切らず、ある程度これを楽しみ、これに遊ぶ術を身につけた方が、得であろう。

諸君は、縁あって高専に集ったのであるが、ここで学んだことのプラスの1つは、5年間同じクラスで過ごした友人を三十数名持っているということであろう。念の入ったことに、初めの2年間はみな同じ釜のめしを食っている。学校にいる間は、知りすぎ、知られすぎていることをうとましく思うこともあったであろうが、青年時代に、5年にわたって親しく交った間柄というものは、これは特別なものである。気が合うとか合わぬとかいうことを越えた、この「同期の桜」という連帯感は、貴重品のごとく大事にしなければならない。

大事にする気持ちはあっても、卒業すれば、もう生涯相会うことなくして終る友人が数名はいると思われる。おそらく、卒業式当日のクラスコンパが「全員集合」の最後の機会である。寂しいことではあるが、そういう寂しさが、人生を乾燥無味から幾分か救ってのもいるのであろう。

私も、卒業式で、もと1年C組のメンバーが1人1人名前を呼ばれるのを、心して聞こうと思っている。



取締役 執行役員 開発本部長 大久保 篤 機械工学科 18期卒業
本社 〒107-0052 東京都港区赤坂 2-11-7 ATT 新館 10階 TEL 03-6230-4414 (代表)
F1 松浦工場 〒859-4521 長崎県松浦市今福町北免 1642-12 TEL 0956-73-8111 (代表)
URL : <https://www.chukoh.co.jp>

中興化成工業は1963年松浦市で創業以来、ふっ素樹脂を主力とした高機能樹脂の総合加工メーカーとして歩んできました。佐世保高専卒業生は17人が在籍し、お客様の課題にソリューションを提供するために各拠点で活躍しています。

【その他お知らせ】

『佐世保高専ボート部「サヨナラ・イベント」のお知らせ』

私たちの佐世保高専ボート部は、創部55周年目になる2023年度末をもって廃部となります。そこで、下記日時に「サヨナラ・イベント」を開催することに致しました。

○開催日：2023年10月7日（土）

＜イベント詳細＞

12時00分～14時30分

第1部「ボート部の歴史を振り返るトークセッション」

○開催場所＝佐世保高専「大講義室」

15時00分～17時00分

第2部「現所有の艇に乗って漕ぎませんか？」

○開催場所＝佐世保高専「ボート部 艇庫」

18時30分～21時00分

第3部「会食&パーティ」

○開催場所＝JA させばホール

（住所＝佐世保市松浦町2-28）

会費（予定金額）＝¥5,500/名

ご参加ご希望の方は、ボート部顧問・松尾先生宛て「E-mail：h-matsuo@sasebo.ac.jp」にお申込みをお願い致します。

佐世保高専ボート「サヨナラ・イベント」開催事務局
担当：松尾秀樹（E-mail：h-matsuo@sasebo.ac.jp）

【同窓会への寄付金のお願い】

同窓活動は皆様の寄付金にて運営されております。同窓会HPの充実による会報電子化、会員同士の情報一元化等には皆様の寄付金が後押しとなります。

ご協力をよろしくお願い申し上げます。

寄付金振込先（寄付金額：一口5,000円）

◎郵便振替（口座番号：01810-8-2985）

加入者名：佐世保工業高等専門学校 同窓会

※振込用紙を同封しております

◎銀行口座（十八親和銀行・日宇支店）

（普）1272703：佐世保高専同窓会事務局

（注）「氏名+期+科」（例：サキタクウ5C）で振り込み願います。

ご注意ください

佐世保高専同窓会と無関係の業者から同窓生に対して名簿販売の案内や情報提供依頼が送られることがありますのでご注意願います。

【編集後記】

今年は各支部長に丸投げし、原稿を集めてもらうように連絡した結果、OBの方より寄稿文が集まった。ありがとうございます。今後もこのように8,000名におよぶ同窓会員の皆様の声を少しでも会報という名でも広報（ネットワーク）できればと思います。

同窓会員の方々の経験話、失敗・成功談、様々な場面での判断論、信念、人生論、これからの夢、何でもあれです。

また、卒業後の苦労話、改善策、学生諸氏へのエール等々楽しみにお待ちしております。

是非、各支部長を通じて沢山の投稿をお願いします。

【佐世保高専同窓会 会報印刷及び発送委託業者】

小野高速印刷株式会社

熊本営業所：〒862-0951 熊本市上水前寺町1-12-12

電話：0120-58-3002 Fax：0120-81-2299

誌名 沖新（佐世保高専同窓会報）

発行日 2023年5月

発行 国立佐世保工業高等専門学校
同窓会報編集委員会

〒857-1193 佐世保市沖新町1-1

電話&Fax：0956-34-8463

ホームページ <http://www.sasebo.ac.jp>

印刷：小野高速印刷株式会社